

### 3. 専門分野 I

## 1) 専門分野 I 構築の考え方

基礎看護学は、学生が看護について理解を深め、看護の専門性を追求するとともに看護師が創造性を持ち、発展的に考えられるよう基礎的能力を養う領域と位置づける。そこで、基礎分野・専門基礎分野で学習した内容と関連づけながら、看護実践に必要な基礎知識・技術・態度を習得させるとともに、アセスメント能力や指導力を育成し、対象の理解と対象に応じて安全に看護が実践できる方法を学ぶ。これらのことから、基礎看護学の科目構成は基礎看護学概論 I・II、基礎看護学方法論 I～VIII で構成した。

基礎看護学概論 I では、看護とは何かを考え、看護の主要な概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の考え方について、それぞれの概念間の相互関係について触れ、看護の対象となる人間を統合的にとらえ、身体的・精神的・社会的な健康を目指す存在として理解する。あらゆる健康レベルにある人々に心を傾けられる看護の専門職業人としての態度を形成していく基礎的知識を習得する。

基礎看護学概論 II では、臨床看護とは何かを考え、臨床という場の特徴、臨床看護における看護師の役割と機能について学ぶ。臨床の場を意識し、健康障害の経過の概念と治療を受ける対象のニーズを理解するとともに、健康に向かって回復の過程を援助する看護の考え方、看護の方法を理解する。

基礎看護学方法論では、対象者一人ひとりの状況に応じた具体的な看護援助の方法について学ぶ。看護技術とは何かを考え、科学的根拠のみならず、対象者を生活者として自身の人生を生きている一人の人間として捉え、科学的思考を活用した看護実践の方法を学ぶ。

基礎看護学方法論 IV、V では、あらゆる看護行為に共通する基本的な技術

基礎看護学方法論 I、II、III では、日常生活援助技術

基礎看護学方法論 V、VI、VII では、健康障害時に行われる治療や処置時の基本的技術

基礎看護学方法論 VIII では、人々の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる技術

### 目 的

人間のライフサイクルにおける健康の意義と、保健医療チームにおける看護の役割を理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。

### 目 標

- ①看護の概念及び本質を理解し、保健医療チームにおける看護の機能と役割を理解する。
- ②看護の対象と人間関係を深める必要性を認識し、発展させる方法を学ぶ。
- ③看護の対象を生活者としてとらえ、生活過程を整え、健康回復促進のための技術を習得する。
- ④健康の保持・増進、疾病予防、健康の状態に応じた看護実践の基本と、治療・処置を伴う基本的な援助方法を学ぶ。
- ⑤科学的な思考を用いた看護過程展開の技術を習得する。

2) 専門分野 I の構成図とねらい

	科目名	単位数 (時間数)	内容
基礎看護学	基礎看護学概論 I	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の概念</li> <li>・看護理論</li> <li>・看護者の倫理</li> <li>・看護提供の場</li> <li>・保健医療福祉チーム</li> <li>・看護をめぐる制度と政策</li> <li>・看護師教育</li> <li>・日本の看護職の成立と発展</li> </ul>
	基礎看護学概論 II	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床における看護師の役割と機能</li> <li>・健康障害の経過に伴う患者の理解と看護</li> <li>・治療に伴う患者の理解と看護</li> <li>・看取りの援助</li> </ul>
	基礎看護学方法論 I	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止の技術</li> <li>・清潔の援助技術</li> </ul>
	基礎看護学方法論 II	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的活動の援助</li> <li>・睡眠と休息の援助</li> <li>・環境調整技術</li> </ul>
	基礎看護学方法論 III	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事援助技術</li> <li>・排泄援助技術</li> </ul>
	基礎看護学方法論 IV	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサイン</li> <li>・フィジカルアセスメント</li> </ul>
	基礎看護学方法論 V	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術の特徴</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・学習支援</li> <li>・呼吸・循環を整える看護技術</li> </ul>
	基礎看護学方法論 VI	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷管理技術</li> <li>・検体・検査の援助技術</li> <li>・診察・検査・処置の援助技術</li> <li>・医療機器を必要とする患者の看護技術</li> <li>・生体情報のモニタリング</li> </ul>
	基礎看護学方法論 VII	1 単位 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物療法と与薬技術</li> </ul>
	基礎看護学方法論 VIII	1 単位 (30 時間)	看護過程
	基礎看護学実習 I	1 単位 (45 時間)	病院実習 基礎看護学実習 I - 1 基礎看護学実習 I - 2
	基礎看護学実習 II	2 単位 (90 時間)	病院実習

13 単位  
435 時間

2. 専門分野 I - 3) 教授内容

(1) 基礎看護学

授業科目	基礎看護学概論 I	講師名	山根美智子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 1. 看護の成り立ち、役割と機能を理解し、「看護とは何か」を表現できる。 2. 看護の対象である人間の理解、看護の目的、看護の方法を理解する。 3. 看護の考え方に影響する健康のとらえ方、人間を取り巻く環境について理解する。 4. 看護を実践するための倫理、制度、多職種連携のあり方、看護活動の場を理解する。						
単元	回数	授業内容			方法	
ようこそ看護の世界へ	1	1 授業のガイダンス 2 看護師とは誰に何をやる職業か			講義 グループワーク	
	2	1 看護の役割と機能 2 看護の定義			講義 グループワーク	
	3	1 近代看護の成立			講義	
看護の対象である人間の理解と看護の目的、看護の方法の理解  健康と環境の理解	4 5 6 7 8 9 10 11	1 健康の捉え方、環境の考え方 2 全体的な存在としての人間 3 ナイチンゲールの「看護覚え書」における看護の対象、看護の目的、看護の方法、健康、環境 4 ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」の看護の対象、看護の目的、看護の方法、健康、環境 5 オレムの看護の対象、看護の目的、看護の方法、健康、環境 6 ロイの看護の対象、看護の目的、看護の方法、健康、環境 7 トラベルビー、ペプロウの患者-看護師関係			講義 グループワーク  プレゼンテーション	
看護者の倫理	12	1 看護者の倫理			講義	
看護の提供のしくみ	13	1 職業としての看護 2 看護サービス提供の場			講義 グループワーク	
看護をめぐる制度	14	1 看護をめぐる制度と政策 2 看護職者の教育とキャリア開発			講義 グループワーク	
評価	15	筆記試験 50 点      課題 50 点 課題「自分の考える『看護とは何か』」について図示または文章にてまとめる。 提出は後日指定する。				
テキスト等 ① 茂野香おる他著:基礎看護学 看護学概論、系統看護学講座専門 1 医学書院 ② ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 ③ 金井 一薫編著:ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる 株式会社西東社 ④ 城ヶ端初子著:やさしい看護理論 現場で活かせるベースの考え方 メディカ出版 ⑤ 日本看護協会監修 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会						

授業科目	基礎看護学概論Ⅱ	講師名	小熊陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
<b>科目目標</b> 1. 各健康レベルにある対象の特徴を理解し、健康状態に応じた看護の考え方が理解できる。 2. 多様化する治療方法に伴う患者のニーズ、看護の基本について理解できる。 3. 臨床の場の特徴と看護職の役割について理解できる。 4. 保健・医療チームの一員としての役割、多職種との連携・協働について理解できる。						
単 元	回 数	授業内容			方法	
臨床看護とは	1 2	1. 臨床看護における看護師の役割 2. 患者と家族、患者と医療者 3. 臨床看護の場とは			講義	
健康障害の経過からみた看護	3 4 5	1. 健康障害のレベルとしての「経過」とは 2. 急性期を経験している患者の看護 3. 回復期を経験している患者の看護 4. 慢性期を経験している患者の看護 5. 終末期を経験している患者の看護 6. リハビリテーションと看護			講義 GW	
治療方法とそれを受ける患者の看護	6 7 8 9 10 11	1. 治療法の多様化とインフォームドコンセント 2. 人工臓器装着／臓器移植を必要とする患者の看護 3. 精神療法を受けている患者の看護 4. 安静療法と看護 5. 食事療法と看護 6. 薬物療法と看護 7. 手術療法と看護 8. 集中治療と看護 9. 救急治療と看護 10. 化学療法と看護 11. 放射線療法と看護			講義 GW	
看取りの援助	12 13 14	1. 死亡の場所とケア 2. 死にゆく人と周囲の人々へのケア 3. 日本文化の風習 4. 死後の処置			講義 演習	
評価	15	筆記試験 80%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 20%				
<b>テキスト等</b> 1. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メディカルフレンド社 2. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 3. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院						

授業科目	基礎看護学方法論 I	講師名	小熊陽子	単位 1 単位	時期 1 年次前期
			田中享子	時間 30 時間	
<b>科目目標</b> 1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、感染防止の技術を習得する。 2. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、清潔援助技術を習得する。 病床での衣生活の基礎知識を理解し、衣生活を整える援助技術を習得する。					
単元	回数	授業内容	方法	担当	
感染防止の 基礎知識	1	1. 感染防止の技術	講義	小熊	
	2	・感染防止の基礎知識 ・標準予防策、感染経路別予防策 ・洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 ・感染性廃棄物の取り扱い ・カテーテル関連血流感染対策 ・針刺し防止策			
感染防止の 実際	3	1. 手洗いの実際	演習	小熊	
	4	2. 手袋・ガウン・ゴーグル等の装着 3. 無菌操作			
評価	30% (筆記試験 20%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 10%)				
清潔の援助	5~6	1. 清潔援助の基礎知識 清潔援助について考える 2. 清潔援助 ・入浴、シャワー浴 ・全身清拭、陰部洗浄 ・洗髪、整容、手浴、足浴、 ・口腔ケア	講義 GW	田中	
病床での 衣生活の援助	7~8	1. 援助の基礎知識 ・衣服を用いることの意義 ・衣生活に関するニーズのアセスメント 2. 病衣・寝衣の交換	講義	田中	
清潔援助の 実際	9~15	1. 清潔援助技術 ・清拭、陰部洗浄・寝衣交換・洗髪・足浴 口腔ケア演習	演習	田中	
評価	70% (筆記試験 60%、出席状況・演習等 10%)				
<b>テキスト等</b> 1. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

業科目	基礎看護学方法論Ⅱ	講師名	小熊陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
<p>科目目標</p> <p>1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解する。</p> <p>2. 安全・安楽を考慮した体位保持・体位変換の技術を習得する。</p> <p>3. 活動と休息を整えるための看護技術を習得する。</p> <p>4. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、快適な療養環境を整える技術を習得する。</p>						
単元	回数	授業内容			方法	
活動と休息 の援助	1	1. 看護師が行う活動・休息援助			講義	
	2	2. 運動機能が障害されるということ				
	3	3. 睡眠（休息）が障害されるということ				
	4	4. 活動にともなう援助の安全・安楽の確保				
	5	5. 活動援助にともなう基礎知識				
移動・移送 援助方法	4	1. 移動援助の実際			演習	
	5	体位変換とポジショニング				
	6	歩行援助				
	7	移乗・移送（車椅子・ストレッチャー）				
評価	50%（筆記試験 40%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 10%）					
療養生活の 環境	1	1. 看護師が行う環境調整			講義	
	2	2. 療養生活と環境調整				
病床を整え る援助	4	1. ベッドとベッド周囲の環境整備の実際			演習	
	5	2. 患者の状況に合わせた環境整備				
	6	ベッドメイキング				
	7	臥床患者のリネン交換				
評価	50%（筆記試験 40%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 10%）					
<p>テキスト等</p> <p>1. 茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>2. 仁 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>2. 宮脇美保子他著：新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社</p> <p>3. 任和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院</p>						



授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ	講師名	小熊陽子 田中享子	単位 1 単位 時間 30 時間	時期 1 年次前期
<p>科目目標</p> <p>1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解し、食事介助の具体的な方法を習得する。</p> <p>2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解し、排尿・排便の援助技術を習得する。</p>					
単元	回数	授業内容		方法	担当
食事援助の 基礎知識	1	1. 看護師が行う食事援助		講義	小熊
	2	2. 食事援助にともなうアセスメントの視点とアセスメントに必要な知識			
療養生活と栄養	3	1. 疾患・症状・治療にともなう食事と食事療法		講義	
食事援助の実際	4	1. 経口的な栄養摂取		演習	
	5	2. 非経口的な栄養摂取			
	6	・経鼻経管栄養法			
	7	・胃ろう法			
評価		50% (筆記試験 40%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 10%)			
排泄援助の 基礎知識	8	1. 看護師が行う排泄援助		講義 GW	田中
	9	2. 排泄援助の基礎知識			
	10	2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法			
	11	3. 自然排尿・自然排便の援助 4. 排泄機能に対する援助			
排泄の援助技術	12	1. 排泄援助の実際		演習	
	13	(おむつ交換、床上排泄、ポータブルトイレ)			
	14	(導尿、グリセリン浣腸、摘便)			
評価		50% (筆記試 40%、出席状況・レポート・小テスト・演習等 10%)			
<p>テキスト等</p> <p>1. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>2. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>3. 關戸啓子他著：ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち④ 臨床栄養学, MC メディカ出版</p> <p>4. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論, メジカルフレンド社</p>					

授業科目	基礎看護学方法論Ⅳ	講師名	小熊 陽子 神山奈津江	単位	時期
				1 単位 時間 30 時間	
<b>科目目標</b> 1 生命維持の基本となる生理的变化を把握するための基本的技術を習得する。 2 バイタルサインの正常値や変動因子がわかる。 3 バイタルサインを正確に測定することができる。 4 フィジカルアセスメントの意義がわかる 5 フィジカルアセスメントに必要な情報収集の方法(測定技術)がわかる					
単元	回数	授業内容		方法	担当
バイタルサイン の観察とアセ スメント	1	1. バイタルサインを観察する意義		講義	小熊
	2	2. バイタルサインの変動因子と個体差 3. 体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎知識 4. 意識に関する基礎知識			
バイタルサイン の計測	3	1 バイタルサインの測定の実際		演習	
	4	(体温・脈拍・呼吸・血圧)			
	5				
	6				
	7				
評価		50%(筆記試験 40%、レポート、演習、出席状況等 10%)			
フィジカルアセ スメント	1	1. フィジカルアセスメントの意義		講義・ 動画視 聴	神山
	2	2. 問診・視診・触診・聴診・打診  授業後の課題学習 ・腸音の聴取・心音聴取			
	3	3. フィジカルアセスメントの実際		講義・ 動画視 聴	
	4	①消化器系			
	5	②呼吸器系			
	6	③循環器系 ④神経系フィジカルアセスメントの実際 ・瞳孔の観察			
	7	4. フィジカルイグザミネーションの実際		演習	
	8	・身長・体重・腹囲の測定 ・呼吸音聴取 ・心音聴取			
評価		50%(筆記試験 40%※課題やミニテストを含む、演習 10%)			
<b>テキスト等</b> 1. 茂野香おる他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 任 和子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 3. 守田美奈子監修:写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス インターメディカ 4. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目	基礎看護学方法論V	講師名	神山奈津江 小熊陽子	単位	1 単位	時期	1 年次
				時間	30 時間		
科目目標 1. 医療におけるコミュニケーションの特徴が理解できる。 2. 効果的なコミュニケーションの方法について理解できる。 3. 呼吸・循環系に障害を持つ対象への看護の方法を理解する。							
単元	回数	授業内容		方法	担当		
コミュニケーション	1	1.看護技術の特徴		講義	神山		
	2	2.医療におけるコミュニケーションの意義と目的					
	3~4	3.関係構築のためのコミュニケーション		演習			
	5~6	4.効果的なコミュニケーションの実際					
	7	5.コミュニケーション障害への対応 6.学習支援					
評価	0.5 (45分)	50% (筆記試験 50%)					
呼吸・循環を整える看護技術	8	1. 呼吸・循環が障害されるということ		講義	小熊		
	9	2. 呼吸・循環の基礎知識					
	10	3. 呼吸・循環を整える技術の基礎知識 酸素吸入療法・排痰ケア 持続吸引・吸入、人工呼吸療法 体温管理・末梢循環促進ケア					
	11	1. 呼吸・循環を整える援助の実際		演習			
	12	・酸素吸入療法					
13	・排痰ケア 体位ドレナージ、咳嗽介助 一時的吸引：口腔、鼻腔、気管内吸引 ・温罨法、冷罨法 ・弾性ストッキングの装着						
14							
評価	0.5 (45分)	50% (筆記試験 40%、出席状況・レポート・演習等 10%)					
テキスト等 (コミュニケーションは1、診療に伴う技術は2~4を使用) 1.茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2.任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 3.宮脇美保子編集：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メジカルフレンド社 4.任和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 5.本庄恵子,吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス インターメディカ							

授業科目	基礎看護学方法論VI	講師名	森本 深青子	単位 1単位	時期 1年次後期	
			小熊 陽子	時間 30時間		
<b>科目目標</b> 1. 検体検査について理解し、検査を受ける対象の援助技術を習得する。 2. 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 3. 医療機器を必要とする対象の援助技術を習得する。 4. 創洗浄・創保護の援助技術を習得する。 5. 褥瘡発生の機序とアセスメント方法を理解し、褥瘡予防の援助技術を習得する。						
単元	回数	授業内容			方法	担当
医療機器を必要とする患者の看護	1	1. 医療機器の種類とその進歩 2. 医療機器の安全管理 3. 医療機器を必要とする患者の日常生活の援助			講義	森本
生体情報のモニタリング	2～3	1. 心電図検査 2. 心電図モニター 3. パルスオキシメーター 4. 血管留置カテーテルモニター			講義 演習	
検体検査の援助	4～7	1. 血液検査 2. 尿検査 3. 便検査 4. 喀痰検査			講義 演習	
診察・検査・処置の援助	8～10	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助			講義 グループワーク	
創傷管理技術	11 12 13 14 15	1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置 3. 褥瘡予防 4. 創洗浄と創保護の実際 5. 包帯法の実際			講義 演習	
評価		筆記試験と演習等で総合評価する				
<b>テキスト等</b> 1. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メジカルフレンド社 3. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 4. 本庄恵子,吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス,インターメディカ						

授業科目	基礎看護学方法論Ⅶ	講師名	森本 深青子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 1. 薬物の効果が安全に生体に作用するための与薬に関する基本的知識を習得する 2. 正確で安全な与薬を行うための援助方法が理解できる 3. 薬物療法における看護師の役割が理解できる						
単 元	回 数	授業内容			方法	
薬物療法と 与薬技術	1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法の基礎的知識 3. 薬物療法における看護師の役割			講義	
	6 7	1. 注射法の実際 ①注射の基礎知識 ②注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）			講義	
	8 9	1. 皮下注射・筋肉内注射の援助の実際 ①アンプルカット			演習	
	12 13	1. 静脈内注射の援助の実際 ①ワンショット援助の実際 ②点滴静脈内注射 クレンメを用いた自然滴下による方法 ③中心静脈カテーテル留置の介助			講義	
	2	1. 特に注意すべき薬剤 2. 薬物療法時の患者の支援、援助方法			講義	
	3	1. 薬物療法時の患者の支援、援助方法			講義	
	4 5	A 経口与薬・口腔内与薬 B 吸入法 C 点眼法 D 点鼻法 E 経皮的与薬 D 直腸内与薬			演習	
	14 15	1. 静脈内注射の援助の実際 ①ワンショット援助の実際 ②バイアルの薬品の吸い上げ ③点滴静脈内注射 ④クレンメを用いた自然滴下による方法			演習	
	10 11	1. 輸血の管理及び援助法 ①輸液ポンプの使用法と基本的操作 ②シンリジポンプの使用法と基本的操作			講義	
	評価		筆記試験 80 点、レポート・演習等 20 点等で総合評価する			
テキスト 1. 篠崎郁他著：系統看護学講座 専門1 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2. 任 和子ほか編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院						

授業科目	基礎看護学方法論Ⅷ	講師名	小熊陽子	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
<p>科目目標</p> <p>1. 看護を科学的に実践するための基礎となる思考過程を修得する。</p> <p>2. 看護上の問題を導き出す過程を理解し、計画立案、実施、評価の基本的な考え方と実際を学ぶ</p>						
単 元	回 数	授業内容			方法	担当
看護過程の展開と理論	1	1. 看護過程とは			講義	小熊
	2	2. 看護過程の基盤となる考え方 問題解決過程・クリティカルシンキング リフレクション				
		3. 看護過程の各段階 理論との関係 アセスメント、看護問題の明確化 看護計画、実施、評価				
3	4. 看護記録 1) 記載・管理における留意点 2) 看護記録の構成					
看護過程演習	4	1. 事例をもとに看護過程を展開する			演習 個人ワーク グループワーク	
	5	ビジョンとゴール設定				
	6	ポートフォリオ作成し、活用していく				
	7	情報収集とアセスメント				
	8	関連図				
	9	看護問題の明確化と優先順位の決定、発表				
	10	看護計画立案、発表				
	11					
	12					
	13	看護計画の実施、評価、修正				
	14					
	15	要約				
評価	筆記試験 50%、出席状況・レポート・出席状況・演習等 50%					
<p>テキスト</p> <p>1. 茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>2. 石川ふみよ編著：看護過程の解体新書，学研メディカル秀潤社</p> <p>3. 山口瑞穂子，関口恵子監修者：経過がみえる疾患別病態関連マップ，学研メディカル秀潤社</p> <p>4. 山口瑞穂子，関口恵子監修：疾患別看護過程の展開，学研メディカル秀潤社</p>						